

日光の 伝統工芸

traditional crafts of nikko

② 日光茶道具 (にっこうちゃどうぐ)



日光茶道具とは

日光茶道具は、木工のロクロ技術を生かした観賞用のミニチュア玩具です。茶わんや茶たぐ、茶釜、茶筒、急須、ひしゃく、茶こぼしなど可愛らしい茶道具十種類がお盆に載せられています。お盆の大きさは12×30cm。材質は、茶釜にサクラとクリ、急須にミズナラ、お盆にトチの木、ほかにもケヤキやミズキ、イゴの木など、道具によって材料が使い分けられています。

日光茶道具の歴史と現在

日光茶道具は、明治初期から木地師(木工素材を作る人)の余技として作られてきたのが始まりです。また、日光茶道具に生かされている

ロクロ技術は、明治中期に小田原から来た等原熊吉により、能率の良いくない3人掛けロクロから、足踏みロクロに改良されました。そのため、地場産業の貢献者としても名を残しています。日光茶道具も、一時はこれらの数多いロクロ師により手がけられてきましたが、現在は、製作する人も日光地域に2、3人を残すのみとなり、非常に貴重な存在となっています。

ロクロ師たちが自ら作った工具(バイトやカンナ)などによって、一つ一つ作り出される日光茶道具。木工技術ならではの味わい深い民芸品として、数多くの愛好者に親しまれています。くわしくは

日光彫協同組合(日光商工会議所日光事務所内) 宝殿66・1 ☎(50)1171

日光木彫りの里工芸センター

市営である日光木彫りの里工芸センターは、伝統工芸を身近に感じていただくための体験施設です。今回紹介した日光茶道具だけでなく、日光彫、日光堆朱塗、日光下駄の名品を展示し、その製作工程を紹介すると共に、日光下駄の製作現場も見学することができます。

また、日光彫が気軽に体験でき、自分のオリジナル作品を作ることができる「日光彫り体験教室」は、とても人氣が高く、年間3万人以上の方が参加しています。製作時間は、約1時間30分で、熟練した職人の指導の下、材料費の負担だけで手鏡や菓子器、丸盆などを製作できます。

市の伝統工芸に親しむと共に、自ら作って楽しんでみてはいかがでしょうか。

くわしくは

日光木彫りの里工芸センター
所野2848 ☎(53)0070



traditional crafts of nikko

所蔵作品撰 2008 冬

今回の所蔵作品撰では、滋賀県の安土にある、織田信長に所縁の寺・惣見寺から寄託を受けた小杉放菴の襖絵6点のうち、夏に展示しなかった残りの2点を特別に展示します。

これらの襖絵に描かれた内容に合わせて、当館の所蔵作品や寄託作品の中から、「閑庭」、「霜後」、「梅花鳴禽」などといった花鳥画や、情感にあふれた植物や鳥のスケッチ、さらには、そのほかの大画面構成の作例として、早い時期の大作屏風「列仙屏風」を展示します。

秋が深まり冬に向かう落ち着いた季節の中、美術鑑賞をぜひお楽しみください。

会 期: 10月25日(土)~12月14日(日)まで

開館時間: 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)

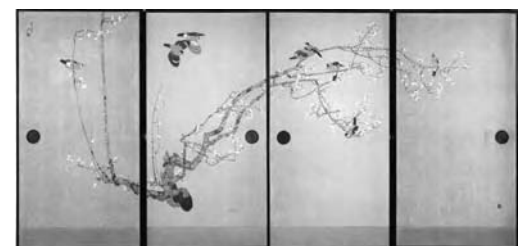
休 館 日: 毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日を休館)

入 館 料: 一般...700(300)円、大学・高校生...500(200)円、小・中学生...無料

※()内は市民割引券を利用した際の料金です。



小杉放菴「山行」紙本着色 襖絵 1933(昭和8)年



小杉放菴「閑庭春禽」紙本着色 襖絵 1944(昭和19)年

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館

日光市の文化財 ②0

日光市指定文化財 報徳役所書庫



種 別 有形文化財(建造物)
指定年月日 昭和40年3月6日
【旧今市市指定】
所 在 地 日光市今市(報徳今市振興会館敷地内)

二宮尊徳翁は、嘉永六(一八五三)年に幕府より日光神領の復興を命じられ、安政二(一八五五)年、現在の今市小学校東側に報徳役所を設け、執務の拠点としました。そのときに施設のつとして建てられた土蔵書庫が手狭となったため、弥太郎(尊徳の子)が安政六年に建て替えたものがこの報徳役所書庫です。

書庫は、板橋で切り出された板橋石が用いられており、側面には二宮家の家紋が付けられています。内部は二階になっており、延べ一〇坪(三十三㎡)の空間に、膨大な量の書類が収められていました。

慶応四(一八六八)年に役所が機能を停止した後は、書庫は民間人の手に渡り、移築されて各地を転々としていたようですが、昭和三〇年の二宮尊徳翁没後百年祭にあたり、報徳役所跡に戻され、現在に至っています。

この書庫は、報徳役所の施設として、唯一現存する貴重な建造物です。

